

# 信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報  
【第16号】  
発行人 中田 宣彦  
事務局 長野市西長野6ノロ  
信州大学教育学部内  
TEL・FAX (026) 238-4370



## 大変革期を支える同窓会に

同窓会会長 中田 宣彦

新世紀を目にし、早くも二年目を迎えました。また、本学部同窓会は、昭和六十二年八月十一日の設立総会以来、創立十六年目の第八期役員のもとスタートを切りました。同窓会員の皆様方におかれましては、鋭意ご活躍のことと拝察致します。

ご縁をいただき、第七期中田育成会長先生の足跡を引継ぎ、非力ですが会長職としての私をお支えいただきたく、役員一同よろしくお願いいたします。さて、ご承知のように、国立大学は大変革期の真只中です。大学同士の再編統合、教員養成系の学部の統廃合、独立行政法人化（独法化）の準備。学部も本年度からこの三つの準備に追われることになりました。学部からは、三月初めに「将来構想」が公表され、「引き続き教員養成を担当する」学部存続の意向明言がありました。主な構想は三点あり、  
①臨床の知を具現化するカリキュラムの充実と幼児教育・障害児教育等のニーズへの対応

②一年次からの臨床経験の重視  
③現職教員の教育充実

など、一層学部としての教員養成の充実を図るべく構想を基に、他大学との交渉にあたる旨を藤沢学部長先生が話されています。同窓会としましては、大切にしつつ、優れた人材の輩出を支えるべく支援をして参りたく思います。八月十一日（日）の第十五回総会時には、学部長先生から、学部のあり方の具話を話題にしていたり、総会や法人化などについても話題にしたりする機会を検討しております。皆様方の積極的な参加をお待ち申し上げます。また、新しい試みとして、留学生への助成のみならず「会員への研究助成」を検討し一層会員との身近な同窓会の方向を考えたいと思います。そんな折、全員配布の会報の継続等のためにも会費納入の組織強化を、引き続きお願い致します。同窓会事務局が本館一階に整いました折、この大

変革期に改めて、会員一同の我が母校への更なる支援を切にお願い致しますとともに、来長の際には、母校・事務局・学部長室等へも遠慮なくお立ち寄りいただければ幸いです。

### 第八期同窓会役員名簿

(平成十三年八月～平成十五年八月)

名誉会長	藤沢謙一郎	顧問	倉田 稔 佐野昌男	会長	中田宣彦	副会長	三寺勝美 清水厚実	監事	清水厚実 村田弘之	本部長	渡辺時夫 赤羽貞幸	地区理事	下伊那 清水貫司 諏訪 遠藤正敏 北安曇 花岡 實 松本 遠藤博久 上小 宮下知茂 上水内 佐藤 功 下高井 丸山邦夫 塩 筑 関 通喜 長野 澤田定弘 高校 池田 實 県外 塚田 亮 別府 桂 西村敦子 土屋良一 牛山とも子 杵渕恭宏 伴真理子	事務局長	伴真理子
------	-------	----	--------------	----	------	-----	--------------	----	--------------	-----	--------------	------	--	------	------

# 第十四回 同窓会 通常総会 報告

平成十三年度の通常総会は、定例の八月十一日(土)、長野市中御所の「ホテル信濃路」において五十七名の出席者を得て開催された。

和歌月健人幹事の進行のもと、藤綱孝子副会長の開会宣言、中田育成会長の開会挨拶に続いて、議長団に北村敏幸・渡辺正士、議事録署名人に今村勝彦・山本信行の各氏を選任、書記に岩田靖・齊藤忠彦の各氏を任命して議事に入り、次の三議案が審議された。

### ○第一号議案

平成十二年度事業報告、歳入・歳出決算報告及び財産目録の承認に関する件

総会資料に基づき久保信男幹事より平成十二年度の事業について、中村浩志幹事より平成十二年度の歳入・歳出決算報告及び財産目録について説明がなされ、また清水厚実監事より「適正に処理されている」との会計監査の結果が報告され、全員一致で承認された。

### ○第二号議案

平成十三年度事業計画書(案)及び歳入・歳出予算書(案)の承認に関する件

総会資料に基づき杵淵恭宏事務局局長より、平成十三年度の事業計画、中村浩志幹事より平成十三年度の歳入・歳出予算書(案)についての説明があり、原案通り全員一致で承認された。

### 【平成十三年度事業大綱】

- 一、同窓会報、「第十五号」発行、会員・入会者へ発送
- 二、研究助成 教育学部留学生後援会基金へ拠出
- 三、学部後援 教育学部・大学院充実にむけての援助
- 四、組織充実 地区別活動の促進と未納者名簿の配

布・納入の依頼  
五、長期構想 事務局電算化計画の促進、会員名簿管理業務の検討

### ○第三号議案

第八期役員改選に関する件

第七期役員の任期満了に伴い、第八期役員に関して提案され、原案通り次の各氏が選任された。会長に中田宣彦、副会長に三寺勝美・中村真樹・清水美和子、監事に清水厚実・中村真直徳の各氏。また、名誉会長に藤沢謙一郎教育学部長、顧問に中田育成前会長が



第14回同窓会通常総会 開会宣言



記念講演会 清水厚実氏

## 平成12年度信州大学教育学部同窓会一般会計歳入歳出決算書

自 平成12年4月1日  
至 平成13年3月31日

歳入合計額 5,846,756円也  
歳出合計額 5,684,550円也  
差引残額 162,206円也 13年度へ繰越

### 歳入の部

項目	予算額	決算額	増・△減	備考
1 前年度繰越金	389,846	389,846	0	
2 会費	5,860,000	5,420,000	△440,000	未納者22名
3 雑収入	30,000	36,910	6,910	利子・御祝儀
歳入合計	6,279,846	5,846,756	△433,090	

### 歳出の部

項目	予算額	決算額	増・△減	備考
1 会議費	650,000	433,620	△216,380	総会・役員会等
2 事業費	1,100,000	970,810	△129,190	会報・学部後援等
3 事務費	2,995,000	2,934,500	△60,500	会報発送・印刷等
4 事務委託費	1,013,000	1,169,000	156,000	雇用費等
5 雑費	140,000	176,620	36,620	学部謝礼・御祝儀等
6 予備費	381,846	0	△381,846	
歳出合計	6,279,846	5,684,550	△595,296	

推薦され、全員一致で承認された。議事終了後、臨席の藤沢謙一郎学部長、北條舒正元信州大学学長(信州大学組織維新学部同窓会「千曲会」代表)より祝辞をいただき、藤綱孝子前副会長の閉会宣言で総会を終了した。総会に引き続いて、財団法人図書教材研究センター所長の清水厚実氏による記念講演会「どうなるか日本の教育改革―学力低下は防げるか―」が開催された。日本の教育(学力)の現状や日本及び世界の教育改革の動向について貴重な資料をもとにご講演いただいた。

## ご挨拶



教育学部長 藤沢謙一郎

同窓会の皆様には、日頃から学部の研究にご理解を賜り、ご支援とご協力をいただきありがとうございますことに、心からお礼を申し上げます。

さて、期待をもって迎えた新世紀の幕開けとなる昨年でしたが、世界を揺るがしたアメリカでの航空機によるテロ、その報復としての米軍を中心とするアフガニスタンへの空爆、国内に目を向ければ、政治家の不正の数々と低迷する経済等、残念ながら明るさの感じられない一年でした。

大学もかつて経験したことのない厳しい環境にあります。大学の独立行政法人化、再編・統合問題等のご承知のことと思いますが、第十次定員削減も学部運営に重くのしかかっています。平成十三年度からの五年間に、学部・附属学校併せて六名の教官削減が求められ、これまでに学部教官一名、附属教官一名の削減を実施いたしました。この先四名の削減計画の策定が緊急の課題であり、人事委員会を中心に検討をお願いしているところです。

聖域なき改革の名のもと、あらゆる分野で改革が進行していますが、その中核に効率・能率という経済原理が据えられ、しかも極めて短期間に押し進められることに、教育の場に身を置く者として、果たしてこれでよいのかと戸惑うことも多々あります。

困難な状況にはありますが、伝統と優れた実績を持つ信州大学教育学部が、引き続き二十一世紀の教員養成を担うべく教職員が力をあわせて対応するこ

とが、私たちの使命と認識し取り組んでいるところですので、今後ともよろしくご支援をお願い申し上げます。

次に、平成十四年度に設置された大学院教育学研究科学校カウンセリング専修と、学校教育教員養成課程および養護教員養成課程一年次生に必修の「学校教育臨床基礎」科目について紹介いたします。いじめ・不登校や学級崩壊等の教育に係わる課題は、家庭や学校にとどまらず社会全体の問題として、その対応が求められています。平成十一年度に本学部が教育カウンセリング課程を設置したのも、これらに対応できる指導者を養成するためでした。この度の学校カウンセリング専修の設置は、教育現場からの強い要望に応えるとともに臨床心理士への道を開くためのものであり、人事を含めて準備をすすめ実現に至ったものです。学校教育専攻の一専修として学生定員三名です。今後にご期待下さい。一年次生必修の「学校教育臨床基礎」は、前述した学生二百三十名を、附属松本学校園に一年間配属し、クラス担任教官の指導のもと、様々な活動に参加することで、教師理解、子ども理解、学校理解につなげ、教職への志向をより高め、四年間の学びを充実させたいとして新設した臨床経験科目です。「臨床の知」を教育研究の理念とする学部にとって、一年次から学校教育の場に学びの場を得ることは誠に意義あることですが、今回の実現には、附属松本学校園の深い理解によるものであり、教員養成に学部・附属学校園が一体となって取り組む証ともいえるもので、感謝とともに喜びにたえません。本学部の臨床経験科目は、一年次の「教育参加」、「学校教育臨床基礎」、二年次の「学校教育臨床演習」、三年次の「基礎教育実習」、四年次の「応用教育実習」と一年次から四年次まで一貫・系統的になり充実しました。これを機に、厚みのある教養と専門的知識に裏付け

られた実践的指導力を備えた教員を養成し、社会の要請に応えたいと考えているところです。最後になりますが、皆様のご健勝をご祈念し、挨拶とさせていただきます。

## 学部の新転任・退職教官の紹介

## 【平成十四年度新転任教官】

佐藤運海先生（生活科学教育講座）

新光電気工業株式会社より新任

三野たまき先生（生活科学教育講座）

青森中央短期大学より新任

小山充道先生（教育科学講座）

札幌学院大学人文学部より新任

栗原 久先生（社会科学教育講座）

筑波大学附属高等学校より転任

## 【平成十三年度退職教官】

松本浩毅先生（社会科学教育講座）

平成二年四月着任、定年退職

小林 詢先生（社会科学教育講座）

昭和四十三年四月着任、定年退職

浅輪光男先生（生活科学教育講座）

昭和三十九年四月着任、定年退職

徳田節子先生（生活科学教育講座）

昭和五十六年五月着任、定年退職

和田 清先生（教育科学講座）

昭和四十六年四月着任、定年退職

## 学部の近況から

### 学部の再編・統合の問題と

#### その対応について

平成十三年六月に文部科学省が発表した「大学（国立大学）の構造改革の方針」、平成十三年十一月の「国立の教員養成系大学・学部の在り方に関する懇談会」の最終報告書に対する本学部の対応の内、「再編・統合の問題」について概要を説明します。

○少子化に伴い、教員採用が極度に厳しくなっているため、教育系大学・学部は、これまでの一県一大学・学部の方針を改めることになりました。教育系大学・学部は現在、全国で四十八を数えます。この内、教員養成課程の学生定員を見ますと、百名以下が十六、百〜二百名が十六、二百名以上が十六学部となっています（信州大学は二百三十名）。学生定員が少ない場合には、当然ながら教員数も少ないため、望ましい教育ができないことから統合や再編により教員養成の身を一層充実させようということになります。平成十三年十一月に提出された「国立の教員養成系大学・学部の在り方に関する懇談会」の最終報告書にもこのような考え方が明確に述べられており、文部科学省は、報告書の内容に沿って、再編・統合を速やかに実施したい考えです。ただし、各大学・学部により事情が多様であるため、大学間で交渉し合い、自主的に再編・統合を完成するよう促しています。

単科の医科大学と統合し、教育学部を廃止して新たな学部を設置する大学の動向などがマスコミで取

り上げられておりますが、五月現在構想を確定した大学はありません。他大学・学部を吸収する（教員養成担当大学となる）にしても、吸収される（一般大学となる）にしても、その影響には計り知れないものがあり、軽々に再編・統合を決めることはできないからです。

○「在り方懇談会の最終報告」が再編・統合の形態として挙げている3つの可能性の内、最も基本的と考えられる形態について次に述べています。

「複数の大学・学部を統合するケース……この形態は、再編・統合後の個々の教員養成学部の充実強化が最も明確に表れる方法である。一方、教員養成学部が無くなる都道府県が生じ、現職教員の再教育や教育委員会との連携などの面で工夫が必要となる。」

このことに対応するためには、教育委員会を始め広く地域との連携を深めると共に、学部も地域のために積極的に貢献すべく努力しなければなりません。学部附属リフレッシュ教育総合センター設置構想の推進、県教育委員会との協力関係の一層の促進（県教委・学部連絡協議会を新設しました）、すべての授業を一般市民に開放する（開放授業）事業の継続、出前講座の拡大実施など鋭意努力しているところです。

○今年度から、大学院に新たに「学校カウンセリング専修」を設置し、大学院を拡充・充実させました。「臨床の知」を理念に据えた教員養成プログラムの体系化するため、今年度から附属学校園との協力により、科目「学校教育臨床基礎」を新設し、一年次生全員を一年間松本地区の附属学校園の各学級に配属させて教師としての資質修得を目指しています。二年次で履修する「学校教育臨床演習」、三年次及び四年次で実施する「教育実習」と相俟って、教員養成の先導的試行として全国的に注目されています。

○このような学部内の努力とは別に、近隣の複数の大学・学部とも、再編・統合を含め、教員養成の在り方について意見交換を行っております。特に、地理的に近いということから、上越教育大学とは、より良い教員養成や現職教員研修の在り方等について定期的に意見交換を重ねてきました。両者が力を合わせることで、教員養成や現職教員研修の身を改善できるかもしれないという期待を持っています。

○大学・学部の再編・統合は、必然的に附属学校園の存続にも深く関わってきますが、この件については紙面に余裕が無いので別の機会に触れることにします。同窓会の一層のご支援をお願いいたします。

（前評議員・学部長補佐 渡邊時夫）

### 附属学校園の挑戦

#### 〜外圧を改革のエネルギーに〜

信州大学教育学部同窓会の皆さまには、日頃より附属学校園に対するご理解とご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、昨年十一月に文部科学省の「国立の教員養成系大学・学部の在り方に関する懇談会（以下、在り方懇という）」が最終報告書を公表して以来、「信大教育学部と附属学校園は一体どうなるのか」と多くの同窓会員の皆さまからご心配をいただいております。そこで、本誌面をお借りし、附属学校園の存続問題の現状とそれに対応する各校園の取り組みについて、ご説明させていただきます。

附属学校園が現状のまま存続できるのかどうかという点につきましては、本稿の執筆時点においてもなお「未だ不明である」と申し上げるほかにありません。ただ、附属学校のあり方に関して「在り方懇」が指摘する、同一校種複数校の見直し、附属学校規

模（学級数）の適正化の二項目は、当附属学校に該当する項目であり、仮に存続が可とされた場合においても、この点での一部見直しは避けられない情勢にあると判断されます。

もちろん、学部と附属はこの問題にただ手をこまねているわけではありません。学部自体もいち早く「教員養成担当大学・学部」になることを内外に宣言し、同時に長野と松本の附属学校園体制を存続させる姿勢を示しました。教育学部のこれらの方針は、学長を始めとする大学当局からも支持されております。

また附属学校園では、今進みつつある事態を、附属学校園が望ましい方向に変わるためのチャンスと捉え、国からの圧力を学校改革のためのエネルギーに転換し活用しようと、様々な試みを始めっております。

例えば、学部と附属の教官のすべてが参加する「学部附属共同研究」の組織が既に立ち上がりまして、附属学校園の公開研究会には学部の教官が必



平成14年度学部附属共同研究全体会

ず指導者として参加するなど、学部と附属の距離が急速に縮まりつつあります。また、本年度からは、学部一年次生を松本地区の附属学校園の各クラスに配属し、教員養成初期段階での臨床経験をさせる場として「学校教育臨床基礎」という授業を開設しました。これらは、学部及び附属学校の教官の相互理解と協力によって実現しているものであり、「在り方懇」が指摘する、附属学校の本来の在り方の具現化であるということができます。

さらにまた、長野地区と松本地区ではそれぞれ独自の学校改革構想を打ち出しております。

長野の小・中・養の三附属では、「共生」を改革のキーワードに据え、学部・大学院と附属学校との有機的連携の促進、不登校児童生徒教育、帰国子女及び外国人子女教育のための新たな教室づくり、異年齢学習集団、少人数学習集団による教育の実現、などを軸とした将来構想を描いております。一方、松本地区の幼・小・中の三校園においては、二十一世紀の学校創りをテーマにし、「連携」をキーワードとして改革に取り組んでおります。そこでは、子どもの育ちの連続性を重視し、一人ひとりの学びを確実に繋げた確かな学力形成を保障するために、幼・小・中を一体化した新しい制度による学校づくりが構想されております。

これらはいずれも未だ構想の段階であり、今後さらに検討を重ねて、日本を代表する教員養成学部に対応しい附属学校園を創り上げていかななくてはなりません。冒頭にも述べましたが、学部並びに附属が存続できるか否かは未だ不透明であります。しかし、私どもは存続させるための強い意志と発展させるための強い意欲を持っております。

同窓生の皆さまのご支援をお願い申し上げます。  
（附属学校園長代表・附属松本中学校長 糟谷英勝）

### 就職状況

文部科学省からの報告によると、平成十二年度、国立の教員養成系大学・学部を卒業した学生のうち、小中学校の教員に正式採用された人は卒業者の十三％で、平成十一年度に比べて一％上回っています。また、講師など期限付きの採用（臨採）は、調査を始めた一九七〇年度以降最多の二十五％であります。このため、減少を続けた臨採を含む教員就職率は十年ぶりに増加しています。一方、本学の平成十三年度卒業生・修了生の進路（次表）を卒業生に対する割合で前年度と比較しますと、教員就職者が五％増加、公務員や会社員など教員外が七％減少しています。

これらの結果は、少人数学級化（学級編成は四十人を越えないとする基準が緩和された）や少人数学習集団づくりの政策などによる教員採用数の増加が反映されたもので、どんだの教員採用率から脱出する兆しとも見受けられます。しかし、正式採用者は既卒者が新卒者を逆転していること、幅広い経験をもつ人材の確保のために社会人枠が設けられたり、さらに、年金の受け取り年齢の引き上げに伴う定年退職後の再雇用制度の導入など、新卒者の採用枠が圧迫される要因も多々あります。教員志望学生は、まだまだ冬の時代であります。

本年度卒業する学生は、学部改組した後、初めて入学した第一期生であります。教員になる場合は新しい免許法が適用されますし、新課程の生涯スポーツ課程と教育カウンセリング課程の卒業生の進路も注目されます。新課程の学生への就職ガイダンスも充実させる予定であります。

同窓会の皆様には、学生の就職活動に関して一層のご指導、ご支援をお願いする次第であります。

（就職委員長 漆戸邦夫）

平成十三年卒業生・修了生進路状況

平成十四年三月二日現在

Table with columns for '就職・進学先' (Employment/Advanced Study), '学部・大学院別' (Faculty/Graduate School), and '進路' (Career Path). Rows include categories like '小学校', '中学校', '幼稚園', '専修学校', '短大', '大学', '大学院', '公務員', '会社員', '自営業', 'その他'.

(注) 1. ( ) は臨探で内数、○は外国人留学生で内数

Summary table with rows: '就職率(学部) 88.8%' (excluding advanced students), '教員就職率(学部) 63.3%' (excluding advanced students), '教員養成課程卒業生に対する教員就職率 57.5%'.

ワシントン大学教授

塚田松雄氏の講演会開催

平成十三年十月十一日、昭和二十八年卒業の塚田松雄氏の講演会が学部で開催されました。演題は「私と片仮名英語」。学生・院生を中心に、教職員、卒業生が合わせて百二十名ほど参加し、氏の熱の入った講演を拝聴しました。講演では、氏の専門である花粉分析による古気候と古環境の研究にふれた後、近年日本中に流布し、文部科学省や国語審議会でも容認され、情報機関を通して無神経に使われている片仮名英語は、日本人が正しい英語を身につける上で極めて大きな障害であることを、具体的な事例をあげて説明されました。その上で、過去の誤った英語教育の轍をふまないためにも、問題点を十分に掘り下げ、教育の管理者と現場の教師とが一丸となった対処が必要であり、その具体的対処法についても言及されました。四十年間近くにわたる外国での生活と経験からにじみ出た指摘であり、大変説得力のある講演でした。



講演会 塚田松雄氏

母校よいつまでも

私は昭和四十六年から信大に勤めました。その前に志賀高原に三年かかわってききましたので、学生時代を合わせると三十八年もお世話になったことになります。もう木造校舎は何もありませんが、ただ一つ、明治二十八年造成の文化的な赤レンガ庫が北校舎N館の北側に残されています。その真向かいの研究室で、毎日、赤レンガを眺めながら最後を過ごしたことは幸せでした。ありがとうございました。

◆志賀施設を造る

昭和三十八年から三年間、延五百名の学生の労力奉仕で今の志賀施設は生まれました。当時の人たちは五十代の後半、ぼつぼつ定年を迎える方もいるようですが改めて感謝いたします。学部の危機を救ってくれたこの偉業は、学生の活力がいかに大きいかを教えてください。

◆同窓会で想うこと

この十年間で同窓会の正会員数は大幅にふえましたが、松橋初代会長は、いつまでも同じ事業計画の継承でよいものかとある総会で助言されました。私は一期と六期の庶務幹事を担当し、役員は次々と変わっても中身は代わり映えしなないと思っていたので、会費値上げ、専任事務局長と事務室確保は画期的で、これは久保前幹事長のお力です。

◆学部存続に期待

三月末の退職者昼食会で、森本信大学長は「敵前逃亡のようでもうらやましい」と挨拶され、それを受けた副学長は「いや、これから大学はおもしろくなるのに、その前に去るとは残念なことだ」と話されました。赤レンガ庫のように、学部が永続することを祈るのみです。

(前信州大学教授 和田 清)

# 会員の声

## 子供たちに教えてもらったこと

教師としての一年目、一年生を担当することになって、やる気に燃えていました。しかし、「○○やろうよ！」と言うと、「やだねったらやだねっ」の合唱が始まる毎日でした。我慢がでなくて、すぐに大声で怒るようになりました。いつも「どうしてみんなは……」と怒っていました。そんな私にある子が大事なことを教えてくれました。

お楽しみ会をした時、私がオルガンを弾きながら歌を歌いだしました。だんだん騒いだり、オルガンで遊んだりする子が出てきました。私は、「聴きたくないんだね。」と言って途中でやめてしまいました。数カ月後、またお楽しみ会をすることになった前日、ある女の子がそばに来て「先生、お願いだから今度は最後まで歌ってね。私はちゃんと聴いているんだよ。」と言ったのです。私は言葉が出ませんでした。そして今まで、私対三十三人ひとかたまりという見方をしていたことに気づきました。本当は私対一人の繋がりが三十三本あるはずだ、とも気づきました。私との繋がりを結んでくれていたその子は、私が歌を突然やめた時傷ついたんだろうなあ、と胸が痛くなりました。全員が騒いでいるという態度をとってしまったからです。

それから、一人ひとりと糸を結ぼうと努力するようになっています。例えば、大声を出しそうになる時真つすぐこちらを見て一人の子に気づくとはっとなります。その子の姿を皆に伝えると、怒った時よりも気持ちよく静かになれるのです。焦ることもありますが、時間はかかっても、一人ひとりと繋がる

糸を太くしていきたいと思っています。そして歌を突然やめるように、私から糸を切るようなことは二度としないようにしたいです。

(松本市立島内小学校 御堂島真樹子)

## 家庭生活からの学びを

春がきて、草木が芽吹き、緑が刻々と成長し始めると、雑草の始末が気になります。

私の勤務していた市街地の学校では、千人ほどの生徒がいても校地内の空地やフェンス際は、草丈三十センチにもなるほどに草に覆われてしまうときがありました。庁務の先生が、草刈機で刈り取って下さるので見苦しくもならず学校生活を送ることができました。学校では、草かきも鎌も仕事ができるように用意されているはずですが、それが道具として使われていない(使えない)のが今の生徒の姿であるようであります。私たちは、大人になるまで、鎌の使い方や草かきの使い方を教えてもらった覚えはありません。うさぎの餌がなくなったから、やぎの餌がないからと学校から帰るのを待っていたかのようになかったはず。当然最初は鎌などは使えなかつたはず。体験を通して知らず知らずうちに鎌の特性をつかんで鎌の切れ味を感じていくたように思います。私たちは、教えられて覚えただけでなく日常生活がそれを身に付けさせてくれたのであります。今は、そのような生活もなくなり、生活の中から必然的に学びを得る内容も少なくなりました。また、家のために、人のためにという学びの場も少なくなり心の生活が減ってきました。そして、自然と共に生きる日常生活も家庭の中から消えつつあります。

学校で草取りができないと気をいらだたせる以前に子どもたちから失われていく目に見えない多くの

財産を、日々の生活の中に取り戻すことの大切さを強く思わせられる今日この頃です。

(信濃教育会 小林澄男)

## 中村浩志氏が山階芳麿賞を受賞

現在信州大学教育学部理数科学教育講座教授の中村浩志氏(昭和四十三年度卒)が山階芳麿賞を受賞されました。この賞は、山階鳥類研究所の創設者山階芳麿伯爵の功績を讃え、鳥学研究に功績のあった人に贈られるものです。カッコウなど托卵する鳥とされる鳥(宿主)の共進化の仕組みを遺伝子レベルまで分け入って解明し、托卵の研究に新分野を開いたことが受賞理由です。授賞式は秋篠宮殿下ご臨席のもとに、六月十一日、千葉県の中央学院大学で行われました。この賞の最初の受賞者は故羽田健三先生で、歴代受賞者十一人のうち四人までが信大教育学部生態研究室の教官と出身者となりました。



授賞式 中村浩志氏

信州大学教育  
学部同窓会

# 第十五回通常総会(通知)

## 日時

平成14年8月11日(日)  
午前10時より

## 会場

長野市岡田町「ホテル信濃路」

## 次第

1. 開会宣言
2. 会長挨拶
3. 議長団選任
4. 議事録署名人の選任並びに書記の任命
5. 議事

第一号議案 平成13年度事業報告及び収入・支出決算報告

第二号議案 平成14年度事業計画(案)及び収入・支出予算(案)の承認について

6. 来賓祝辞
7. 閉会宣言

記念講演会：12時より

講師：教育学部長  
藤沢謙一郎氏

祝賀懇親会：13時より

## 記念講演(一般公開)

### 教育改革と

### 信州大学教育学部の将来構想

教育学部長 藤沢謙一郎氏

文部科学省の「国立の教員養成系大学・学部の在り方に関する懇談会」は、昨年十一月に最終報告を文部科学省に提出しました。

報告書は、I. 国立の教員養成大学・学部が直面する主な課題、II. 今後の教員養成学部の果たすべき役割、III. 今後の国立の教員養成大学・学部の組織・体制の在り方、IV. 附属学校の在り方の四つから構成されていますが、報道をはじめ世間では、IIIの今後の組織・体制の在り方、とりわけ現在の一県一教員養成学部から県境を越えた再編・統合の行方に関心が集まっています。

全国には四十八の教員養成大学・学部が在り、新構想大学をのぞく各大学・学部は各々の歴史と伝統

を持ち、地域の教育と密接な関わりを維持してきただけに、その存続の如何は極めて重要な問題です。信州大学教育学部の将来構想は、この「在り方懇談会報告書」への対応となるものであり、本学部が二十一世紀の教員養成を担う学部として存続するため、その基本的理念と将来ビジョンを示したものです。講演では、教員養成の在り方に関する懇談会報告と信州大学教育学部の将来構想案について説明し、同窓会会員のご理解を得て、実現にご支援をいただきたいと考えています。

### プロフィール

一九六二年東京教育大学体育学部卒業、長野県公立高等学校教諭を経て、一九七五年信州大学教育学部講師、一九七八年信州大学教育学部助教授、一九八九年信州大学教育学部教授、一九九七年附属教育実践研究指導センター長、一九九八年附属長野小・中・養護学校校長、一九九九年信州大学教育学部

## 事務局便り

事務局の新しい運営が始まり一年が過ぎました。事業の遂行、会員名簿の管理、ホームページの立ち上げ等の仕事が順調に行われております。会員の皆様にお願ひ  
・同窓会費の二重払いに注意してください  
同窓会の会費は終身会費です。会報が夏の総会前(七月)にお手元に届いた方は納入済みです。二重払いされた会費はお返ししますが、振り込み手数料等が引かれますので全額返金出来ません。  
・同窓会のホームページについて  
各種研究会、サークル活動、等の案内を載せることが出来ますので情報をお知らせください。  
同窓会事務局への電子メール、ホームページは次の通りです。



http://taaedu.shinshu-u.ac.jp

同窓会ホームページ

事務局長(杵渕) ykine03@gipnc.shinshu-u.ac.jp

事務局員(伴) banmari@gipnc.shinshu-u.ac.jp

記念講演会終了後、「ホテル信濃路」において懇親会(会費四、〇〇〇円)を開催します。こちらへも多数ご参加ください。申し込みは同封の葉書で事務局までお願いいたします。